

5. 聖徳太子の墓

のちに聖徳太子と呼ばれる厩戸皇子（うまやどのみこ）が葬られたと考えられる古墳は、近つ飛鳥博物館の北、約2キロに位置する叡福寺（えいふくじ）の境内にあります。現在、石室の内部を見ることはできませんが、この模型は残された記録から再現したものです。

直径約54mの円墳で、中央には表面を平らに磨いた見事な切石で作られた横穴式石室があり、内部には3つの棺が置かれていたようです。石でできた台の上に黒漆を塗った棺がのせられていたと考えられています。

復元模型の左側、石室の奥のものが聖徳太子のお母さん、右側の二つのうち手前が夫人、奥側の少し大きなものが聖徳太子本人のものと説明されていますが、確かなことはわかりません。

近つ飛鳥博物館の北方には、この聖徳太子の墓をはじめ、敏達（びたつ）天皇、用明（ようめい）天皇、推古（すいこ）天皇、孝徳（こうとく）天皇ら6世紀後半から7世紀の御陵（ごりょう）と想定される古墳が集中しており、磯長谷古墳群と呼ばれています。このうち最初の敏達天皇陵古墳は前方後円墳ですが、それ以降のものは大型の方墳か円墳であることが注目されます。